

学生支援の現場から

◆広島市立大学

当然やるべきことをきっちりやる学生支援

上田 義文
(教務学生支援担当部長)

広島市立大学は、国際学部、情報科学部、芸術学部の三学部で一七〇七名の学部生を、また各学部に対応した大学院で三一五名の大学院生を擁する大学です。

私たちは、「当然やるべきことはきっちりやる」ことに力を注いでいます。

本学では「自主性のある学生が多い」ということを誇りに思っています。クラブ・サークル活動には約六割という高い率の学生が登録し、ボランティアには環境系・国際交流系に数多くの学生が参加しています。また就職では、自由参加にも関わらず学内の就職イベントに年間約四六〇〇名もの学生が参加し、インターンシップ参加者も五年間で四倍に増えています。就職決定率についても九四%以上の高い率を開学以来ずっと保ち続けています。

しかし、本学では「キャリアセンター」を設置しておら



全学就職ガイダンス
(2008年10月23日開催 広島市立大学)

ます。学生の言い分をしつかりと聞くとともに、悪い点は悪いとはっきり指摘してあげることも重要です。このような姿勢を継続することで、学生はスタッフの言葉に耳を傾けるようになるのを感じます。さらに、学生が相談に来たときは、じっ

くりと時間をかけて話を聞いてあげることが最も大事だと思います。大抵の学生は事務局のカウンターに来ると誰に聞こうか戸惑っています。ここで無視をしたり「忙しいから後で」などと言ったりすることは論外として、忙しいかなそぶりを見せるだけでも学生は我々から離れていきます。一昔前の話ですが、学生が就職相談に来たら必ずコーヒーを出すようにしていた時期もありました。現在でも就職相談については学生の話聞くことを第一に考え、携帯電話に連絡しても連絡のつかない学生は夜に実家に連絡したり、



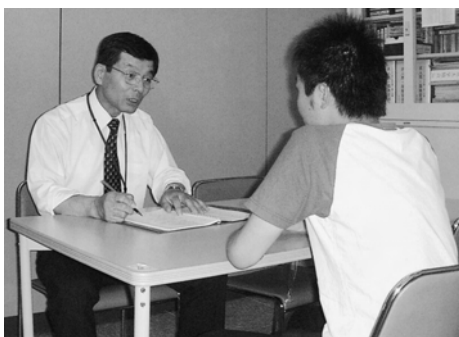
ボランティア活動のひとつ
通学路クリーンキャンペーン

とても嬉しそうな顔をします。「あなた」でなく「○○さん」と呼ぶように努めています。学生の名前を覚えるということは学生とスタッフの信頼関係を築くための基本だと思います。

また、事務局スタッフも教師としての自覚を持って学生に接するようにしています。履修届を平気で遅れて出してくる学生を指導するのも教育、寮費をたびたび滞納する学生に支払いを催促するのも教育、進路をはっきりと決めない学生の話をつたひたすら聞くのもまた教育であると思

芸術学部の学生を創作工房まで探しに行ったりするなど全員に連絡がつくまで追いかけて続いています。しっかりと時間をかけて学生の話聞き、真正面から受け止めてあげることで、学生は自分がどんなに重要な存在であるのか気付いてくれます。

これらのことが、どの程度効果があるのか数値的に示すことは困難ですが、学生が社会人を理解するとともに接し方を学び、将来社会人になった自分を思い描く上で役に立っているのではないかと思います。



就職相談 学生の本音を聞くためじっくり時間をかけています

本学も、将来的には財政面・人事面における合理化を避けることができないと思います。それでも「当然やるべきことをきっちりやる」ことを継続し、「社会性のある学生」をこれからも育てていきたいと思